

平成30年度行政事業レビューシート (法務省)

事業名	国際連合薬物犯罪事務所 (UNODC) 拠出金及び国際連合開発計画 (UNDP) 拠出金			担当部局	大臣官房			作成責任者	
事業開始年度	平成28年度	事業終了 (予定) 年度	終了予定なし	担当課室	国際課			国際課長 松井 信憲	
会計区分	一般会計								
根拠法令 (具体的な条項も記載)	法務省設置法第4条第1項第36号			関係する計画、通知等	国連総会決議 (第46回 (46/152 (1991年)), 第52回 ((52/220 (1997年)), 第58回 (58/140 (2003年))), 「犯罪に強い社会の実現のための行動計画2008」, 「日本と国連薬物・犯罪事務所の戦略的協力 - 共同行動計画 - 」 (2015年6月9日改定)				
主要政策・施策	ODA			主要経費	その他の事項経費				
事業の目的 (目指す姿を簡潔に。3行程度以内)	国際組織犯罪への包括的な取組を目的とする国連薬物・犯罪事務所 (UNODC) に対する拠出を通じて、アジア・太平洋地域を中心とする国々との国際犯罪への対策強化等を図るとともに、2020年に日本で開催する国連犯罪防止刑事司法会議 (コンGRESS) に向けて、事務局であるUNODC事務局との綿密な連絡・調整、協議等の計画的な準備の推進に寄与することを目的とする。持続可能な開発、民主的ガバナンスと平和構築などを重点活動分野とする国連開発計画 (UNDP) に対する拠出及び我が国からの法曹人材の派遣を通じて、UNDPとの協体制度の構築、密接な連携を進め、我が国のODA戦略に寄与することを目的とする。								
事業概要 (5行程度以内。別添可)	UNODCが管理する「犯罪防止刑事司法基金」への拠出により、東南アジア諸国の刑事司法分野における法整備支援プロジェクト等を行う専門家を雇用する。UNODCへの拠出により、UNODC事務局内にポストを設置し、事務局内部の動向に関する情報の入手など、事務局と日本政府との連絡・調整を行うとともに、必要な準備会合を実施する。 UNDPへの拠出及び我が国法曹人材の派遣により、発展途上国のガバナンス向上の支援活動を実施するほか、UNDPとの協力・連携により、我が国のODA戦略における潜在的支援国を発掘する。								
実施方法	その他								
予算額・執行額 (単位:百万円)	予算の状況	当初予算	-	30	104	85	128		
		補正予算	-	-	9	-	-		
		前年度から繰越し	-	-	-	-	-		
		翌年度へ繰越し	-	-	-	-	-		
		予備費等	-	-	-	-	-		
		計	0	30	95	85	128		
	執行額	0	30	95					
	執行率 (%)	-	100%	100%					
当初予算 + 補正予算に対する執行額の割合 (%)	-	100%	100%						
平成30・31年度予算内訳 (単位:百万円)	歳出予算目	30年度当初予算	31年度要求	主な増減理由					
	政府開発援助国際連合薬物犯罪事務所拠出金	82	125	UNODC東南アジア大洋州地域事務所(タイ)に対する拠出金等の増					
	国際連合開発計画拠出金	3	3						
	計	85	128						
成果目標及び成果実績 (アウトカム)	定量的な成果目標	成果指標		単位	27年度	28年度	29年度	中間目標 30年度	目標最終年度 32年度
	東南アジア地域における刑事司法分野の発展と相互協力の促進等への貢献のため、研修・ワークショップの実施回数を19回以上とする。	研修・ワークショップの実施回数	成果実績	回	-	19	17	-	-
			目標値	回	-	19	19	19	-
			達成度	%	-	100	89	-	-
根拠として用いた統計・データ名 (出典)	法務総合研究所総務企画部調べ								
成果目標及び成果実績 (アウトカム)	定量的な成果目標	成果指標		単位	27年度	28年度	29年度	中間目標 -年度	目標最終年度 32年度
	コンGRESSの参加者人数を4,000人以上とする。	参加人数	成果実績	人数	-	-	-	-	-
			目標値	人数	-	-	-	-	4,000
			達成度	%	-	-	-	-	-
根拠として用いた統計・データ名 (出典)	第13回国際連合犯罪防止刑事司法会議(カタルドールハ Congress) 参加人数								

定量的な成果目標の設定が困難な場合	定量的な目標が設定できない理由及び定性的な成果目標	定量的な目標が設定できない理由		定性的な成果目標と27～29年度の達成状況・実績							
	事業の妥当性を検証するための代替的な達成目標及び実績	代替目標	代替指標		単位	27年度	28年度	29年度	中間目標 30年度	目標最終年度 -年度	
			【参考指標】日本人職員数	実績	-	-	1	1	-	-	
				目標値	-	-	1	1	3	3	
				達成度	%	-	100	100	-	-	
活動指標及び活動実績(アウトプット)	活動指標		単位	27年度	28年度	29年度	30年度 活動見込	31年度 活動見込			
	刑事司法分野の専門家の雇用により実施した東南アジア地域プログラムのプロジェクト数	活動実績	回	-	3	3	-	-			
		当初見込み	回	-	3	3	3	-			
活動指標及び活動実績(アウトプット)	活動指標		単位	27年度	28年度	29年度	30年度 活動見込	31年度 活動見込			
	開催に向けて準備会合の実施回数	活動実績	回数	-	-	1	-	-			
		当初見込み	回数	-	-	1	1	1			
単位当たりコスト	算出根拠		単位	27年度	28年度	29年度	30年度活動見込				
	拠出金/プロジェクト数	単位当たりコスト	千円	-	9,952	16,257	8,739				
		計算式	千円/件	-	29,856/3	48,771/3	26,216/3				
単位当たりコスト	算出根拠		単位	27年度	28年度	29年度	30年度活動見込				
	拠出金/準備会合の実施回数	単位当たりコスト	千円	-	-	54,846	56,361				
		計算式	千円/回	-	-	54,846/1	56,361/1				
政策評価、経済・財政再生アクション・プログラムとの関係	政策	法務行政における国際化対応・国際協力(14)									
	施策	法務行政の国際化への対応(14 (1))									
	測定指標	定量的指標		単位	27年度	28年度	29年度	中間目標 -年度	目標年度 -年度		
		-	実績値	-	-	-	-	-	-		
			目標値	-	-	-	-	-	-		
		定性的指標	目標	目標年度	施策の進捗状況(目標)						
		-	-	-	施策の進捗状況(実績)						
	本事業の成果と上位施策・測定指標との関係										
	-										
	アクション・プログラム	改革項目	分野:	-							
(第一階層) KPI		KPI (第一階層)		単位	計画開始時 -年度	29年度	30年度	中間目標 -年度	目標最終年度 -年度		
		成果実績	-	-	-	-	-	-			
		目標値	-	-	-	-	-	-			
		達成度	%	-	-	-	-	-			
本事業の成果と改革項目・KPIとの関係											
-											

事業所管部局による点検・改善

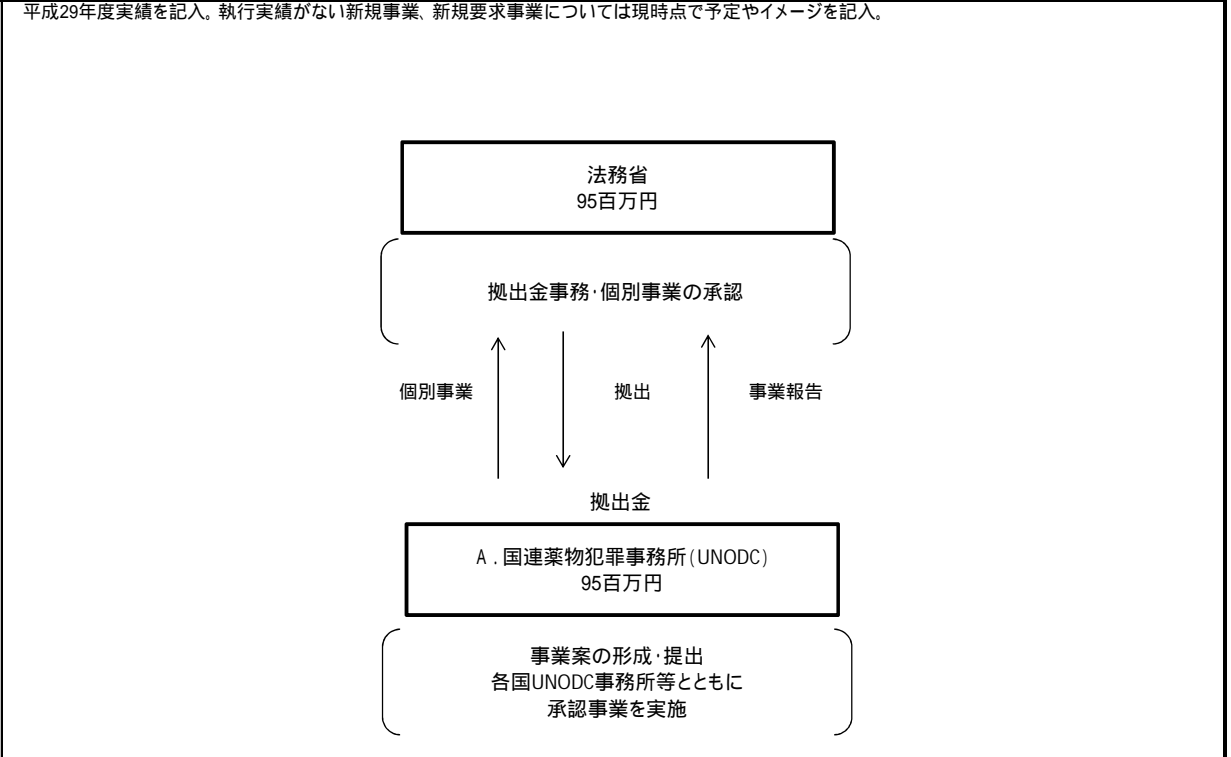
項目		評価	評価に関する説明				
国費投入の必要性	事業の目的は国民や社会のニーズを的確に反映しているか。		国際的な治安対策により、我が国社会の安定と安全に寄与している。				
	地方自治体、民間等に委ねることができない事業なのか。		国連機関が行う国際的な治安対策や kongress開催のための事業であり、民間等が代替することはできない。				
	政策目的の達成手段として必要かつ適切な事業か。政策体系の中で優先度の高い事業か。		国際社会の安定のため相応の貢献が求められており、必要な事業である。				
事業の効率性	競争性が確保されているなど支出先の選定は妥当か。		UNODCが比較優位を有する分野に提出している。UNDPが比較優位を有する分野に提出するとともに、職員を派遣する。				
	<table border="1" style="width:100%"> <tr> <td>一般競争契約、指名競争契約又は随意契約(企画競争)による支出のうち、一者応札又は一者応募となったものはないか。</td> <td>無</td> </tr> <tr> <td>競争性のない随意契約となったものはないか。</td> <td>無</td> </tr> </table>	一般競争契約、指名競争契約又は随意契約(企画競争)による支出のうち、一者応札又は一者応募となったものはないか。		無	競争性のない随意契約となったものはないか。	無	
	一般競争契約、指名競争契約又は随意契約(企画競争)による支出のうち、一者応札又は一者応募となったものはないか。	無					
	競争性のない随意契約となったものはないか。	無					
	受益者との負担関係は妥当であるか。		定期的な事業実施報告を通じた説明責任を求めている。				
	単位当たりコスト等の水準は妥当か。		事業内容に鑑み妥当なものと認められる、				
	資金の流れの中間段階での支出は合理的なものとなっているか。		-				
	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。		事業目的に照らすと他の使途は想定されず、真に必要なものに限定されている。				
不用率が大きい場合、その理由は妥当か。(理由を右に記載)		-					
繰越額が大きい場合、その理由は妥当か。(理由を右に記載)		-					
その他コスト削減や効率化に向けた工夫は行われているか。		-					
事業の有効性	成果実績は成果目標に見合ったものとなっているか。		成果実績は成果目標に見合ったものとなっている。				
	事業実施に当たって他の手段・方法等が考えられる場合、それと比較してより効果的あるいは低コストで実施できているか。		代替手段はない。				
	活動実績は見込みに見合ったものであるか。		見込みに見合ったものとなっている。				
	整備された施設や成果物は十分に活用されているか。		-				
関連事業	関連する事業がある場合、他部局・他府省等と適切な役割分担を行っているか。(役割分担の具体的な内容を各事業の右に記載)		外務省がプロジェクトの実施費用を負担し、法務省がプロジェクトを管理・運営する専門家の雇用費用を負担している。				
	所管府省名	事業番号		事業名			
	外務省	0180		国際連合薬物犯罪事務所 (UNODC) 拠出金(任意拠出金)			
点検・改善結果	点検結果	UNODCは国際テロ、組織犯罪対策に包括的に取り組む唯一の国際機関であり、我が国の拠出金は、東南アジア諸国の刑事司法分野における法整備支援プロジェクト等を行う専門家の雇用費用として適切に使われている。					
	改善の方向性	プロジェクトの迅速かつ効率的な実施のため、UNODC側から、プロジェクトの進捗状況等に関し、定期的な事業実施報告を求めるとを含め、継続的なフォローアップに努めていく。また、kongress成功のための取組を計画的・効率的に行っていく。					
外部有識者の所見							
外部有識者による点検対象外である。							
行政事業レビュー推進チームの所見							
現状通り	引き続き効率的な予算の執行に努められたい。						
所見を踏まえた改善点/概算要求における反映状況							
現状通り	-						
備考							

関連する過去のレビューシートの事業番号

平成22年度 -	平成23年度 -	平成24年度 -	平成25年度 -
平成26年度 -	平成27年度 -	平成28年度 28-0002	
平成29年度	法務省 (0065)		

平成29年度実績を記入。執行実績がない新規事業、新規要求事業については現時点で予定やイメージを記入。

資金の流れ
 (資金の受け取り先が何をやっているかについて補足する)
 (単位: 百万円)



A. 国連薬物犯罪事務所 (UNODC)					
費目	用途	金額 (百万円)	費目	用途	金額 (百万円)
抛出現	専門家雇用経費	95			
計		95	計		0

費目・用途欄についてさらに記載が必要な場合はチェックの上【別紙2】に記載 チェック

支出先上位10者リスト

A.

	支出先	法人番号	業務概要	支出額 (百万円)	契約方式等	入札者数 (応募者数)	落札率	一者応札・一者応募又は競争性のない随意契約となった理由及び改善策 (支出額10億円以上)
1	国際連合薬物犯罪事務所 (UNODC)		専門家雇用経費	95	その他	-	-	